

国際ハイウェイプロジェクト

対馬の未来

対馬は「魏志倭人伝」にも島の記録が残されているように、古来より大陸との接点であり、往来の要衝をなしてきた。しかし現実的には日本の最果ての地である。韓国に近いという位置的な条件は生かされていない。

もしかりに日韓トンネルができたとしてれば過疎化に悩んでいた我が島々対馬々はこれまでもとは全く異なる発展の道をたどるに違いない。日韓トンネルの開通が、対馬を極めて有利な国際的舞台に押し上げることは想像に難くない。今年の五月には韓国のKBSテレビが日韓トンネル構想を全国放送したから日韓トンネルもまんざら遠い未来の夢物語ではないかも知れない。その意味で今のうちから対馬の位置付けを日本列島の最果ての地々ではなく「スーパー・インターナショナル・リージョン」として「超国際地域」構想を打ち立てる必要になるのではないか。まさに対馬は大事件「大陸への出島」になる。どうすれば対馬が国際的檣舞台に登場しやすいかを、行政面、経済面から検討する必要があるだろう。

例えば交通の幹線として各地区を高速交通で結ぶために山中トンネルで貫通させて結ぶ。また、そのトンネル技術を駆使して、山間や急峻な山をくりぬいて「山岳都市」を形成する。あるいは、山頂部

が連続して丘陵になっている部分は、眺望のよい「ヒルトップタウン」を形成できる。それによって対馬独特の開発手法を生み出す必要がある。また対馬の数あるビューティフルゾーンの中でも浅茅湾は飛び抜けた絶景であるから自然を生かしながら湾周辺の開発、風光の積極的利用を考えるべきであろう。またその周辺にたつ国際交流施設は九州地区きつての国際的目玉商品となるだろう。また大型ジェット機が離着陸できる空港の整備が、対馬の超地域化、国際化には必須のものとなる。このように対馬の特色をふまえながら、もし日韓トンネルが開通するときには、どのようなイメージの地域というよりも「国」であるべきかを考える視点も必要となってくるだろう。

第3241号 新 馬 対 聞

(4) 2000年(平成12年)6月16日(金曜日)